



吹く

# Best Sound Club へようこそ

第5回

## 数原さんを動かした Something else

数原晋さんといえば、日本の喇叭(らっば)吹きでその存在を知らないものはない、まさに「喇叭の巨人」である。ご本人は決して大柄ではないし、その立ち居振る舞いは謙虚そのもの…なのだが、その片言隻句(言葉の端々)から伝わる「気合」は、接した者の背筋がピン!としてしまうパワーが秘められている。そんな彼が、珍しくホットな言葉をつぶやいたのである…

自分の感覚にあわないものには、手を触れない

かつて毎週金曜日の夜に放映されていた「金曜ロードショー」のテーマ「フライディ・ナイト・ファンタジー」

(現代フランスを代表するムード音楽の作家ピエール・ボルトが書き下ろした作品)、そして、山口百恵の大ヒット「いい日旅立ち」(谷村新司の作曲で、イントロと間奏で絶妙なトランペットのソロがある)、さらに、忘れてはいけない「レパン三世」のテーマや、先ご存じくもこの世を去った藤田まこと氏の代表作「必殺シリーズ」の、あの誰もが知っているテーマをはじめ、劇を彩った哀愁のメロディの数々を手がけた男…数原晋氏の名前は、昭和から平成の現在に至る日本歌謡史に燦然と輝いている。その音色は甘く軽やかに、「トランペットはソプラノ歌手のような存在」という持論のとおり、ハイトーンにしても、轟音とともに成層圏を飛翔するのではなく、軽やかに天空を舞う。歌心にあふれた喇叭(らっば)吹きなのである。

そんな数原氏は研究熱心で、文字通り自らの骨身を削って体得した「日本人の歯」についての研究には鬼気



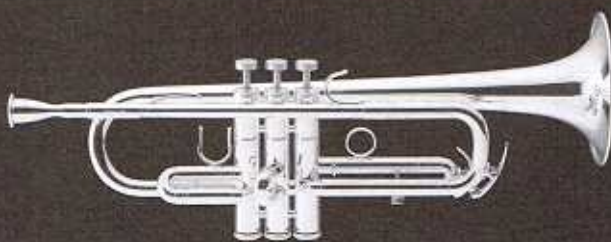
晋道会

# BSC

Brass Sound Creation

from Luxembourg

- TR-501G "WM"  
¥703,500 (税込) <ケース付> 仕上げ: シルク24K金メッキ
- TR-303S "シンフォニー"  
¥417,900 (税込) <ケース付> 仕上げ: 銀メッキ
- TR-206S "オールラウンド"  
¥302,400 (税込) <ケース付> 仕上げ: 銀メッキ
- TR-106S "ニューヨーク"  
¥260,400 (税込) <ケース付> 仕上げ: 銀メッキ
- TR-105S "ミレニアム"  
¥207,000 (税込) <ケース付> 仕上げ: 銀メッキ
- TR-C01S "アルマンド" <C管>  
¥448,350 (税込) <ケース付> 仕上げ: 銀メッキ



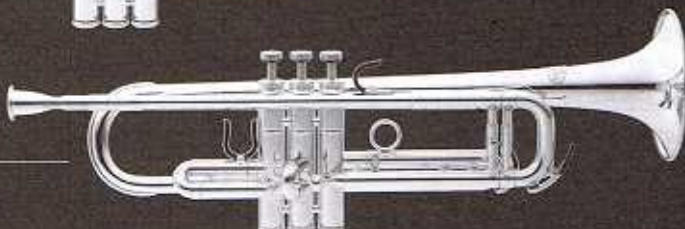
TR-C01S

"アルマンド" <C管>

TR-303S

"シンフォニー"

※マウスピースは付属していません







抜き差し管の仕上げを確認

迫るものがある。また、その愛器をみてもわかるように、ロータリートランペットに適用されている「ハイノート・キー」(実音ハイB♭やハイCなどが鳴るツボに開けたトーンホールを操作するキー)が、同時にチューニングスライドの操作レバーも兼ねている、というアイデアや、マウスピースに対する研究など、楽器に対する造詣の深さは日本一。低音金管や、時にはE♭クラまで手を伸ばす貪欲な好奇心は、それこそ「歩く楽器辞典」そのものなのだ。当然、楽器には深い関心を持っているが、決して流行に流されず、ご自身の感覚に合わないものはどんな理由があろうと一切吹かない…という、一徹なところもある。

そんな彼が、BSC(プラス・サウンド・クリエーション)の楽器に、興味を示した。その理由は、BSCのヴァルヴセクションの構造…もっとはつきりいえば「ボトムキャップ」の構造だっ

た。

### それ、今度吹かせてくれる？

数原氏の演奏風景をつぶさに見ていると、よく片手でボトムキャップをひねるシーンに出くわす。そんなに頻りに緩むようなところではないので、なぜそんなことを？と聞くと、「ヴァルヴ下部のキャップの締め加減が吹きやすさに影響するんで…」

と、ぼつり。締め加減をどうすればいいのか、については教えていただけなかったのだが、確かに試してみると、その部分を適度に緩めたほうが鳴りやすい…そんな気がした。「ね、楽器と言うのはどこでもいじれば変わるんです。それをまず感じられるかどうか、それが大事。そしてその変化をいい方向にまとめていけるかどうか、それが次に大事なんです」

変化が感じられなければ、それはそれで幸せなことだから、無理にそういうことを感じようとしなくてもいい、と微笑む。

「この部分でなぜそんなに変わるかと言うと、やはり外ネジだからではないか、と思っているんです。外側からヴァルヴケーシングを締め付ける構造だから、音の響きが止まってしまうのではないかと…たとえば昔のセルマーには逆ネジ式のもの、ヴァルヴケーシングの内部にネジが入り込むスタイルがあったんです。あれはよかったな…今でもそういうものがあればいいんですけどね…」

思わず編集部が「あります…」とつぶやくと、数原氏の瞳がきらりと光



きっかけは、ヴァルヴ下部のネジだった…左がヴィンテージのセルマー、右がBSC。同じ内ネジ方式である。

った。

「それ、今度吹かせてよ」

奇跡が起きた、と、そのときその場に居合わせた誰もが思った。氏が、現行の市販されている楽器に興味をしめすことがほとんど「ない」ことを誰も熟知していたからだ。そこで、気持ちの変わらないうちに、と、借りられる限りのBSCをかきあつめて持参した。

「へえ、こういうルックスなんですか…」

しげしげと見つめる数原氏。そして、すべてを吹いて、数原氏が言っ

たのは、

「どれもルックスがまるで一緒なのに、それぞれ個性がはっきり違っているのが面白いね」

という一言。好印象なのである。そして数あるBSCのなかから氏が選んだのは「ニューヨーク(TR-106S)」だった。

「別に逆ネジだからいいなと思ったわけじゃない。すでに、そういう話ではないんですよ。すでにそのレベルの話ではなくて…このシリーズ、どれもよく考えられて造られていま

す。ルックスが同じで、それなのにそれぞれ個性がはっきり違う、というのも、追り手のこだわりが感じられて好きですね」

そのなかにあって「ニューヨーク(TR-106S)」は数原氏の好みに合致したようだ。軽やかに甘く歌う数原氏の歌心に、それは見事に応えてくれた。取材班としては、数原氏がここまで心を動かしたことで自体に大きな感動を覚えた。楽器にこだわる男ほど反応してしまうSomething elseを、BSCは確かに持っているようだ。



お気に入りのレストランでの「打ち上げ」でもBSCの話題に…

42

## ヨーロッパのハンドメイドが培った完成度

ヨーロッパ発。オーケストラでもアンサンブルやソロでも、卓越した表現力と吹きやすさで、いま最も熱い視線を浴びるトランペット、それが「BSC」



あるメーカーの楽器を30年以上もの間使い続けてきたが、これを上回る楽器にはもう巡り合わないだろうと思っていた。ところが、ところが、ホント生きていて良かった！

BSCは「吹きやすい」とか「音程が良い」とかの次元ではない。とにかく「音楽しやすい」のだ。

特に「音色が素晴らしい」。「柔らかくて力強く、ヨーロッパの品位が感じられる。」

百聞は一見に如かず。試してみることを是非お勧めしたい。

NHK交響楽団首席奏者 関山 幸弘



日本総輸入元

有限会社 セレクト インターナショナル

〒272-0836 市川市 北園分 1-8-2

e-mail: info@select-inter.com

TEL: 047-374-0792 FAX: 047-372-2704

URL: http://www.select-inter.com